

# ICC Kyoto

夏 SUMMER  
2014

公益財団法人  
国立京都国際会館広報誌





# 巻頭 インタビュー Interview



Hiroo Imura

## 井村裕夫氏

第29回日本医学学会総会2015 関西会頭  
(公財)先端医療振興財団理事長  
京都大学名誉教授  
(公財)国立京都国際会館評議員

1931年生まれ。1954年京都大学医学部を卒業し、内科学とくに内分泌・代謝学を専攻。京都大学教授、同医学部長、総長、総合科学技術会議議員などを歴任。現在は先端医療振興財団理事長として神戸医療産業都市にかかわるとともに、第29回日本医学学会総会会頭として我が国の医学・医療の在り方を議論できる総会の実現に努力している。日本学士院会員(公財)稲盛財団会長なども務める。

# オール関西で開催決定「第29回日本医学学会総会2015 関西」 未来の医学・医療の躍進にむけて

「第29回日本医学学会総会2015 関西」が2015年4月11日より3日間(展示などは2月より開催)、国立京都国際会館ほか関西各地で開催されます。“オール関西”という初の広範な開催の試みから、同総会会頭を務められる井村裕夫氏に、学術講演・学術展示などの会場の一つになる当館にて、来年の開催に向けて目指すべき医療の方向性や京都での開催意義についてお話をうかがいました。

## 転換期を迎える 医学と医療

**木下博夫館長(以下、木下)** 日本医学学会総会が関西の地で開催されるのは平成3年の京都、同19年の大阪以来ですが、第29回日本医学学会総会会頭としてこの度の開催地決定などご準備には大変なご苦労と強い想いがありだったと思います。まず、20世紀冒頭に第1回目が開催されてから21世紀にかけて、日本の医学進歩と共に回を重ねられてきた同総会についてどのようにお考えでしょうか。

**井村裕夫氏(以下、井村)** 日本医学学会総会は、自分の専門外の医学にも関心を持ち、互いに議論すべきであると、明治時代に日本がドイツから招いた医師エルヴィン・フォン・ベルツの提唱によって、明治35年4月に第1回日本連合医学学会として東京で開催されました。以後、4年ごとに全国各地で開かれています。戦後は、アメリカの高い医療レベルにいかについつくかということが総会の大きな課題であり、毎回、諸外国の有名な医師を招き、講演会などによって医療関係者のキャッチアップを重視してきました。しかし今回の総会は、大きなターニングポイントを迎える日本の社会から医学を考える会としました。来年は戦後のベビーブーマー最後の年代が65歳を迎える年で、いよいよ超高齢社会がより本格化するスタートの時期になることから、医療においても少子高齢社会に向けてどう取り組んでいくかということが喫緊の課題となります。長寿社会とは“健康長寿”社会でなければなりません。そのためには医学・医療を大きく革新する必要があることから、今回のテーマを「医学と医療の革新を目指してー健康社会を共に生きるきずなの構築ー」にいたしました。

**木下** これまでも転換期はあったかと思いますが、今回は団塊世代という大きな人口層が高齢期に入るという今までにない転換期になりますね。

**井村** 人口問題は社会に大きな影響を及ぼします。そのあたりを医学ではあまり考えてきませんでしたが、この問題を抜きにしては考えられない実態があります。欧米の医学技術に追いつけという姿勢から、日本はこれまで人類が経験したことのない少子超高齢社会に向けて対策を編み出し、“日本モデル”を作って世界を牽引する立場とならなければいけません。

## 医療関係者と 一般市民が 共に考える新しい 医学・医療の時代へ

**木下** 京都国際会館では学術会議や国際会議の関係者だけでなく、一般の方々にも親しんでいただけるよう、恒例のお茶会や感謝のタベなどの自主イベントに加え、本年からは桜のお花見、映画上映会など多彩なオープン企画にも力を入れております。今回の日本医学学会総会でも一般市民また若い医学生にも積極的に討論に参加できる方向で進めておられます。このことは従来のような総会スタイルでは対応しきれない現情を克服する取り組みではありませんか。

**井村** これまでの医療機関は病気になれば行くところであり、医師側も受け身のスタンスでした。しかし今後、今のままで高齢者の通院が増えれば医療制度は崩壊するでしょう。そのような社会状況において健康維持について、また現在の医学・医療の動向、問題点などを一般の方々と共に考え討論する「参加型の医学学会総会」により健康長寿社会の実現に少しでも貢献できればと考えます。

**木下** 今回、一般公開展示などは神戸で、学術講演や学術展示、医学史展などはこの京都国際会館を含む京都の各会場が担当し、プレイベントは関西各地で手分けした“オール関西”での開催です。このような広域性の取り組みにも大変注目しております。

**井村** 東京一極集中は効率性は高いですが、将来的には人口の極端な偏在と少子高齢巨大都市の出現が予測されます。そこで今後注目されるのは各府県に特徴を持つこの関西です。歴史と自然が豊



京都国際会館にて

かにあり、健康に楽しく生活できる環境をもつ関西において医学学会総会を開くことにより、国内外から参加する多くの方々に現地を見ていただくことで、もっと元気で活力を持った健康長寿社会の新しい方向を打ち出していける機会になるのではないかと期待しております。

## 京都ならではの 文化的支援に期待

**木下** オール関西という取り組みですが、特に京都は学術講演や展示の中心的会場であり、この京都国際会館でも大勢の来場が予測されます。医学的ディスカッションだけでなく、この機会に参加者が総会後のひとときを京都ならではの伝統文化や伝統芸能などに触れていただけるよう、我々も様々なおもてなしに尽力できると考えておりますが…。

**井村** 健康医学では文化的要素も非常に重要視されています。そのような観点から前夜祭では梅原猛先生のご講演と作られた能楽を通して死生観、日本人の無常観などを体感いただければと考えます。また京都には素晴らしい庭園がたくさんあります。京都大学の清風荘(史跡)の公開や、現在調整中ですが南禅寺周辺の別荘地にある小川治兵衛氏作による庭などにふれていただくことも検討しております。

**木下** 現在、メインホール含め全館リニューアルを進めている京都国際会館は、「第29回日本医学学会総会」の開催を本格的なこけら落としの機会と位置づけ



### 「第29回日本医学学会総会2015 関西」 会期と会場

#### 学術講演会

- 会期 2015年4月11日(土)～4月13日(月)
- 会場 国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都、京都大学百周年時計台記念館、京都大学医学部芝蘭会館

#### 学術展示

- 会期 2015年4月10日(金)～4月13日(月)
- 会場 京都市勤業館「みやこめっせ」、国立京都国際会館

#### 公開展示 未来医XPO'15

- 会期 2015年3月28日(土)～4月5日(日)
- 会場 神戸国際展示場

#### 医学史展

- 会期 2015年2月11日(水・祝)～4月12日(日)
- 会場 京都大学総合博物館

#### 医総会WEEK

- 会期 2015年4月4日(土)～4月12日(日)
- 会場 京都劇場、メルパルク京都、その他京都駅周辺

詳細はHPにて ▶ <http://isoukai2015.jp/>

### インタビュー ● 木下博夫

1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長などを経て2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。



ジャパン・プレミア上映会

# Beyond Metabolism

大好評  
でした!

メタボリズムをこえて

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川の招へいアーティストとして京都に滞在したドイツ人映画監督・フォルカー・ザッテル氏とシュテファニー・ガウス氏によって製作された映画「Beyond Metabolism(メタボリズムをこえて)」の上演会が、4月27日(日)、撮影場所となった京都国際会館にて開催されました。当日は2人の映画監督と、同館を設計した建築家・大谷幸夫氏(1924-2013)にゆかりのある建築家、インテリアデザイナー、大学教授たちによる座談会や館内見学ツアーなど4部構成のプログラムを実施。約400人の参加者には映画観賞を含む4時間にわたって和洋融合のモダニズム建築に込められた想いやこだわりなど、日本初の国際会議場の知られざる魅力を満喫いただけました。映画を通して2016年に50周年を迎える京都国際会館の素顔(日常)が体感できたジャパン・プレミア上映会のひとときをご紹介します。

受付開始からぞくぞくと...

貴重な大谷氏のドローイング展示

国立京都国際会館館長 木下博夫

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川前館長  
マルクス・ヘルニヒ氏

座談会は和やかに

館内家具に興味津々!

## Prologue

プロローグ

「メタボリズム」との出会い(映画製作主旨)

フォルカー・ザッテル氏 シュテファニー・ガウス氏



タイトルの『メタボリズム』とは建築家・黒川紀章などが1960年に東京で開催された「世界デザイン会議」で提唱した概念で、社会の変化や人口の成長に合わせて有機的に成長する都市や建築を提案する建築流派のことです。私たちは2011年に森美術館(東京)の展覧会でこの建築概念を知り、滞在地の京都にある歴史的な建築・京都国際会館という建物が、様々な国際会議にどのような役割を果たし、影響を与えたのかを映画化することで、このメタボリズムの概念を捉えたいと考え、「Beyond Metabolism」を制作しました。

## Episode 1

エピソード1

### 映画上映「Beyond Metabolism」

会議開催のない、ある日の京都国際会館での館内清掃や会議場メンテナンスの様子、静かなロビーに時おり響くスタッフの声、庭園を手入れする庭師などに加えて生息する野生のシカの表情なども捉えながら淡々と館内に流れる時間と日常の様子をメインに、1997年COP3での白熱した議論風景と異空間のような静まった同時通訳ブースの現場などを絡めながら構成された約40分間のドキュメンタリー映画。



## Episode 2

### 座談会「歴史を目撃した未来への文化遺産 国立京都国際会館をめぐる」

コーディネーター ● 松隈洋(京都工芸繊維大学教授)

参加者 ● フォルカー・ザッテル(映画監督) シュテファニー・ガウス(映画監督)  
山本敬則(大谷研究室代表取締役) 松本哲夫(剣持デザイン研究所代表取締役)

第3部の座談会では京都国際会館で映画を撮った人、作品に出演した人、当時の建築・デザインに関わった人たちより、それぞれ同館での撮影への想い、大谷幸夫氏の思い出、また建設当時のエピソードなどが語られました。



フォルカー・ザッテル氏

(京都国際会館の“日常”を捉えたのはなぜかという問いに対して)私たちは作品を作るとき、撮るべき“場所(建物)”の構造、構成などすべてを見つめ、撮影することで、単に歴史的なことを追うのではなく、それらが建築としてどんな役割を果たしているのか、その“時”を映像に収めることから見えてくるものをいつも伝えようとしている。



シュテファニー・ガウス氏

会議のない普段の会館の様子には、この建物がまさに“生きている”ことが感じられ、そこには人と建物の会話があった。同館が50年近く京都の地で果たしてきたこと、またこれからどのような方向に進んでいくのかということに撮影を通して私たちは高い関心を持っている。



山本 敬則氏

大谷は建物の機能向上にも亡くなる直前まで非常に積極的だった。また自身の東京大空襲体験から、“建物は人を守らなければならない”という思いも強く、東日本大震災などの災害に対して建物が人を救えなかったことには惭愧の念を抱いていた。自然を制御するのではなく、自然に生かされる建築が大谷の根底にはある。



松本 哲夫氏

50年近く経った今も建物の随所に大谷さんが感じられる。大谷さんとは丹下健三の助手時代からの付き合いだが、彼はこの京都国際会館のコンペに当選してようやく一人前の建築家として活躍する場を得たと共に、当時まだ無名のアーティストを引っ張り出すなど、若い人の活躍にも積極的だった。



松隈 洋氏

会議中でもいろんなところから人の姿が見られたり、声が聞こえることが会議場には大事だという大谷氏の原風景には、幼少期の遊び場として通った帝国ホテルでの印象があったと聞く。複雑なホテル建築の中に大谷少年が座っていると、あちこちからおしゃべりが聞こえてくる、ここにはそんな体験が生かされていると感じる。

## Epilogue

### 館内見学

座談会の後は、大谷幸夫氏の精神を熟知する山本敬則氏と松本哲夫氏による案内で館内見学会を実施しました。当初、希望者先着30名のみの実施でしたが、希望多数のため、映画でも登場した地球温暖化防止会議(COP3)など国際会議で活用されるメインホールやメインラウンジ、庭園からの建物外観などを希望者全員に案内。その後、先着30名は2コースに分かれて、山本氏、松本氏の解説でさらに細部の館内見学会が行われました。

京都国際会館の建築技法、こだわりのデザイン、そして大谷氏の精神に間近でふれた参加者たちは、普段見ることのない貴賓室やRoom Dの同時通訳室など、数多くの国際会議や大規模な世界的学術会議などを支えてきた建物の構造や機能、しつらいにふれながら、改めて建築家・大谷氏の求めた「人は自然の中で集い、話し合う」という想いを体感し、その余韻をアンケートにも多く残してくださいました。

「京都国際会館」を満喫した1日

アネックスホールは同時通訳室も見学

ラウンジも熱気に包まれて

メインホールに感激の声



## 京都国際会館 主催イベント

## 開催予定

## 感謝の夕べ 2014

2014年7月18日(金)19日(土)

1997年の地下鉄開通を記念して始まったガーデンパーティーは、今夏で18回目となります。今年は日本・トルコ国交樹立90周年を記念し、トルコ共和国をテーマにした催しです。文化、習慣、料理や飲み物など、西洋と東洋が織りなす異文化体験をお楽しみください。また京都市内では唯一打ち上げられる花火鑑賞、賞品が当たる抽選会なども行われます。ぜひ皆様のお越しをお待ちしております。お申し込みは当館へお電話またはホームページをご覧ください。



## 四季を愛でる心

～ベニシア・スタンリー・スミスさんを迎えて～

2014年9月19日(金)

1966年、日本で最初の国立の国際会議場としてオープンして以来、四季折々の素晴らしい自然美に包まれた古都京都・洛北の地に建設された京都国際会館では、歴史に残る数々の国際会議が開催されています。特に1997年の「京都議定書」が採択された地球温暖化防止京都会議(COP3)では、自然に囲まれた京都国際会館の広大な日本庭園の役割が会議に大きく関係したと言われています。

このような自然環境に恵まれた会議場を舞台に、京都洛北・大原の里の古民家で暮らすイギリス人、ベニシア・スタンリー・スミスさんをお迎えし、外国人の視点で京都の素晴らしさ、自然の大切さ等を織り交ぜながらお話いただきます。



- 会 場 国立京都国際会館 アネックスホール
- 時 間 12:00開場 13:00～17:00(予定)
- 内 容 映画「ベニシアさんの四季の庭」上映会と講演会
- 入場料 前売券2,000円(税込) 当日券2,500円(税込) 全席自由

## 開催報告

大盛況！  
桜・さくら  
スペシャルデイズ

2014年4月11日(金)～13日(日)

京都国際会館では、初の庭園開放イベント「桜・さくらスペシャルデイズ」を4月11日～13日まで開催し、3日間、庭園内に咲く枝垂れ桜や八重桜など約150本の満開の桜をたくさんの方々にお楽しみいただきました。期間中は京都市立芸術大学の学生さんたちによる庭園アンサンブルコンサートとして、自然あふれる木々の中で野外演奏会も開かれ、来園者のみなさんは桜の花びら舞う中で心地よく聞き入っておられました。



## 第57回 宝松庵茶会

2014年4月29日(祝・火)



4月29日に開催された第57回「宝松庵茶会」は、今年も一期一会の茶の湯の心にふれるひとときとして、大勢のお客様にお越しいただきました。和服姿の方も多く見られ、館内や庭園は華やいだ雰囲気がいっぱいとなりました。約600名の方々が本席、副席での一服を楽しまれ、恒例の実演コーナーでは銀細工の「かざりや鐙」が菓子切の彫金体験や銀細工小物・アクセサリーの展示販売を行い、みなさん興味深くご覧になっていました。雨を受けた鮮やかな新緑のなかでのお茶会は大盛況のうちに終了しました。次は秋の開催予定です。

2014年  
7月～10月

## 開催予定のイベント・会合一覧

(2014年7月1日現在)

| 日程         | 催事名                                                                              | 人数     |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 7月5日～6日    | あすか会議2014 10th Anniversary                                                       | 900人   |
| 7月12日      | 第13回地球研フォーラム                                                                     | 280人   |
| 7月12日～13日  | 第2回日本糖尿病協会療養指導学術集会                                                               | 1,000人 |
| 7月15日～16日  | 第12回技術講演会                                                                        | 400人   |
| 7月18日～19日  | 感謝の夕べ2014                                                                        | 3,500人 |
| 8月2日～3日    | 一般社団法人日本磁気共鳴医学会第36回MR基礎講座                                                        | 280人   |
| 8月8日       | 平成26年度全日本珠算選手権大会                                                                 | 500人   |
| 8月10日～15日  | 第15回国際伝熱会議                                                                       | 1,100人 |
| 8月29日      | 上廣・カーネギー・オックスフォード倫理会議2014                                                        | 600人   |
| 9月6日       | 明るい社会づくり運動全国大会in京都                                                               | 400人   |
| 9月10日～11日  | UAゼンセン第3回定期大会                                                                    | 2,600人 |
| 9月12日～14日  | MSDA2014<br>9th Metabolic Syndrome, Type 2 Diabetes and Atherosclerosis Congress | 1,000人 |
| 9月19日      | 四季を愛でる心～ベニシア・スタンリー・スミスさんを迎えて～                                                    | 800人   |
| 9月21日      | 日本内科学会 生涯教育講演会                                                                   | 1,000人 |
| 9月22日～25日  | 第14回地盤力学数値解析法とその進展国際会議                                                           | 400人   |
| 9月27日      | 第10回京都橘大学看護国際フォーラム                                                               | 700人   |
| 10月5日～7日   | 第11回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STS forum)                                             | 1,000人 |
| 10月15日～18日 | 第87回日本生化学会大会                                                                     | 4,000人 |

※参加者200名以上の会議(参加者数は概数)

## ピックアップイベント

平成26年度  
全日本珠算選手権大会

2014年8月8日(金)

パチパチとそろばんの珠をはじく音に通じることから設定された8月8日は「そろばんの日」で、全国各地より一流選手が集まり、文字通り「そろばん日本一」を決定する大会です。種目別競技としてフラッシュ暗算・読上暗算・読上算、さらに都道府県対抗競技も行われます。電子機器の計算が主流の時代ですが、昨今はまたそろばん技能が再評価されています。



# 歴史箱

ICC Kyoto アルバム

1997  
年



## 地球温暖化防止京都会議 (COP3)



1997(平成9)年12月1日～11日にかけて、地球環境に大きな影響を与える二酸化炭素などの温室効果ガスの削減数値目標を決定する「地球温暖化防止京都会議(気候変動に関する国際連合枠組み条約第3回締結会議)」が京都国際会館で開催されました。世界が注目した日本最大規模の国連会議であり、世界初の法的拘束力をもつ「京都議定書」が採択された会場として今なお、多くの人々の記憶に刻まれる会議です。

会期中は本会議のほか全体委員会、非公式委員会、非公式会合など国際交渉が会議場はもちろん、ロビーなど会館全体は24時間フル活用。また環境にやさしい会議場としてごみの

分別収集、リサイクル可能な食器類使用のほか、室温設置は通常より低めにしたため参加者は少し肌寒い思いを。

会議は予定の閉会当日になっても審議は進まず、結果、1日延長された11日の午前10時10分に京都議定書成案をもって全体委員会が終了しました。実は7か国語の同時通訳者は予定期日にそれぞれ帰国したため、延長した審議では日本側が要請した同時通訳者の日本語と英語のみとなる事態を経ての採択だったのです。

地球温暖化防止京都会議は開催された京都国際会館、また京都市民にも多くの影響を与えた11日間でした。

## 京都国際会館は、2016年の50周年に向けて 装い新たにリフレッシュしていきます。

平成26年6月～10月18日までの期間、大会議場(Main Hall)の耐震改修工事及び内装改修工事を行っております。また、正面玄関を含む外壁改修工事も同時期に実施しております。工事期間中は大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

※工事中も通常通り営業しております。



今月の表紙は夏の感謝のタペであがる花火を背景に、アネックスホールと幸ヶ池に泳ぐ鯉をペーパークラフトで表現されています。

表紙制作: 金甫盈 (キム・ボヨン)  
京都精華大学  
マンガ学部アニメーション学科 講師



ICC Kyoto  
Kyoto International Conference Center

国立京都国際会館

検索

© Kyoto International Conference Center. All right reserved.

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館  
住所 〒606-0001 京都左京区宝ヶ池  
TEL 075-705-1218  
FAX 075-705-1100  
E-mail com@icckyo.or.jp  
URL http://www.icckyo.or.jp/